

第8回東京多摩眼科エキスパート講演会 (WEB開催)

日本眼科学会専門医認定事業 申請中 1単位

謹啓

時下、先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます
この度、下記の要領にて「第8回東京多摩眼科エキスパート講演会」を開催いたします
ご多忙中のところ恐縮に存じますがご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます
謹 白

日 時：2026年 8月 7日(金) 19:00~21:00

開催形式：WEB開催 (ZOOMウェビナー)

会 費：1,000円

登録URL：<https://medical-events.jp/n3bpcw/> QRコード ⇒



開会の辞 日本医科大学眼科学教室 教授
日本医科大学多摩永山病院 眼科部長 堀 純子 先生

【特別講演Ⅰ】19:00~20:00

座長 多摩市医師会眼科部会 会長
多摩センターわたなべ眼科 院長 渡邊 裕士 先生

演者 九州大学大学院医学研究院眼病態イメージング講座
准教授 八幡 信代 先生

「ぶどう膜炎診療のアップデートと最適化治療を目指して」

【特別講演Ⅱ】20:00~21:00

座長 日本医科大学眼科学教室 教授
日本医科大学多摩永山病院 眼科部長 堀 純子 先生

演者 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授
レーザー治療センター長 野崎 実穂 先生

「PDR治療戦略の再構築

- 多様性 (Diversity) を踏まえた個別化医療の実践 - 」

閉会の辞 多摩市医師会眼科部会 副会長
木村眼科医院 院長 木村 純一 先生

特別講演 I

八幡 信代 先生

(九州大学大学院医学研究院眼病態イメージング講座 准教授)

1992年 横浜市立大学医学部卒業
1997年 横浜市立大学医学部眼科, 助手
2001年 横浜市立大学博士(医学)学位取得
Stanford University, Postdoctoral fellow
2006年 Stanford University, Research Associate
2010年 Singapore Institute for Clinical Science, a*STAR, Assistant PI
2012年 Duke-NUS医科大学, Adjunct Assistant Professor
2013年 Singapore Eye Research Institute, Clinician Scientist
2017年 福岡歯科大学総合医学眼科, 講師
2019年 九州大学大学院医学研究院眼病態イメージング講座, 准教授
現在に至る

「ぶどう膜炎診療のアップデートと 最適化治療を目指して」

ぶどう膜炎は多様な疾患群であり、近年は眼内液検査の進歩により感染性ぶどう膜炎や眼内悪性リンパ腫の診断精度が向上し、新規治療薬の開発も進んでいる。一方で全国調査では未分類症例が約40%を占め、新規抗腫瘍薬の普及に伴う新たな病態も報告されている。また、ぶどう膜炎は同一疾患でも重症度や治療反応性、予後は多様であり、治療抵抗例の予測や最適治療の選択が現在の重要な課題である。近年の分子生物学的解析技術の進歩により、患者微量検体から詳細な情報取得が可能となり、病態解明や層別化医療の実現が期待されている。本講演では最近のぶどう膜炎診療の話題と近年の新しい技術を用いて行っている最近のぶどう膜炎研究を紹介する。また、日本眼炎症学会のダイバーシティ推進の取り組みも紹介したい。

特別講演Ⅱ

野崎 実穂 先生

(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授
レーザー治療センター長)

1993年 名古屋市立大学医学部 卒業
名古屋市立大学 眼科学教室 入局
1997年 名古屋市立大学 眼科学教室 助教
2004年 米国ケンタッキー大学 眼科 眼血管新生研究室フェロー
2006年 名古屋市立大学 眼科学教室 病院講師
2008年 同 講師
2021年 名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学 准教授
2022年 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授
現在に至る

「PDR治療戦略の再構築

-多様性(Diversity)を踏まえた個別化医療の実践」

増殖糖尿病網膜症 (proliferative diabetic retinopathy: PDR) の治療戦略は、抗vascular endothelial growth factor (VEGF) 療法の登場に加え、近年ではブrolシズマブ (ベオビュ) の適応拡大により、大きな転換期を迎えている。しかし実臨床においては、PDRの病期に応じた治療選択の必要性に加え、通院継続性 (loss to follow-up: LTFU) や運転・就労といった社会的背景の違いが、治療方針および予後に大きく影響する。すなわちPDR診療には、生物学的多様性と社会的多様性の双方を踏まえた包括的理解が不可欠である。本講演では、抗VEGF療法と汎網膜光凝固 (panretinal photocoagulation: PRP) の位置づけを再整理し、患者背景に応じた個別化治療戦略について考察する。さらに、網膜硝子体学会において実施したダイバーシティに関するアンケート結果を提示し、同学会における取り組みについても概説する。

上記のボタンが機能しない場合は、このリンクをブラウザに貼り付けてください。
<https://us02web.zoom.us/j/81420107467?tk=y-0awKIBSLwrM2skCHTtp2yo0CoyPX-vF9qbBWtoS87Q.DQAAAAAS9QQ->